

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	21-410	独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 真栄里 仁 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Prevalence of Fetal Alcohol Spectrum Disorders (FASD) among Children Adopted from Eastern European Countries: Russia and Ukraine ロシア、ウクライナからの養子における胎児性アルコール症候群有病率		
<b>執筆者</b>		
Colom J, Segura-García L, Bastons-Compta A, Astals M, Andreu-Fernandez V, Barcons N, Vidal R, Ibar AI, Fumadó V, Gómez N, Russiñol A, Garcia-Algar O.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Environ Res Public Health. 2021 Feb 3;18(4):1388. doi: 10.3390/ijerph18041388.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
養子, アルコール, 妊娠中の飲酒, 認知機能, 胎児性アルコール症候群, 神経発達障害, 出生前アルコール暴露		33546212
<b>要 旨</b>		
<p>胎児性アルコール・スペクトラム障害 (FASD) は、神経発達障害の主要な原因である。妊娠中のアルコール摂取量が非常に多い国からの国際的な養子では、FASD のリスクが高い。FASD の診断に関する専門知識の欠如や、育児放棄による神経発達と行動の徴候の混在が適切なタイミングでの診断を困難にしている。本研究の目的は、養子における FASD の有病率を明らかにすることである。ロシアとウクライナから養子に出された 8 歳から 24 歳の児童を対象に、FASD の臨床的および成育歴の特徴を評価した。162 名中、81 名 (50%) が FASD の診断基準を満たした。33 人 (20.4%) が胎児性アルコール症候群 (FAS), 28 人 (17.2%) が部分 FAS, 2 人 (1.2%) がアルコール関連先天異常 (ARBD), 18 人 (11.1%) がアルコール関連神経発達障害 (ARND) であった。胎児期のアルコール曝露が確認できなかった 81 名の小児のうち、多くは母親のアルコール摂取歴が確認されれば FASD の診断が確定するような症状であった。胎内アルコール曝露のリスクの高い子供たち (東欧諸国からの養子) の集団では、少なくとも 50% が FASD に関連する症状を示した。本研究で報告された有病率は、過去の研究結果や出身地の孤児院で得られた結果と一致している。</p>		